



**ヒロセ電機株式会社**

2021年3月期第2四半期決算説明会

2020年11月4日

## イベント概要

---

[企業名] ヒロセ電機株式会社

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2021年3月期第2四半期決算説明会

[決算期] 2020年度 第2四半期

[日程] 2020年11月4日

[時間] 10:30 - 11:14  
(合計：44分、登壇：27分、質疑応答：17分)

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 3名

代表取締役社長	石井 和徳 (以下、石井)
取締役 管理本部長	福本 広志 (以下、福本)
管理本部 IR室長	須崎 英雄 (以下、須崎)

## 登壇

---

**須崎**：おはようございます。定刻になりましたので、ただ今よりヒロセ電機、2021年3月期第2四半期の決算説明会を開会いたします。

本日はご参加いただきありがとうございます。進行を務めますIR室、須崎です。よろしくお願いいたします。

まず最初に進行の次第ですが、最初に社長の石井よりごあいさつを申し上げます。次に、決算説明を須崎より説明会資料に従って申し上げます。そして、年間業績に関して管理本部長の福本より説明を申し上げます。説明が終わりまして、残り時間で質問にお答えする予定です。閉会は11時30分を予定しておりますので、進行のご協力をお願いいたします。

本日の決算説明会資料と、一昨日、東証に提出しております決算短信は、今ご覧の画面にPDFのファイルがございます。それから、プレスリリースや英語版の資料なども用意しております。こちらは画面のリンクから、私どもヒロセ電機のホームページに飛んでいただきますと、そこからダウンロードできるようになっておりますので、併せてご利用をお願いしたいと思っております。

それでは、お待たせいたしました。これより開始させていただきます。まず最初に、社長の石井よりごあいさつ申し上げます。

**石井**：皆さん、おはようございます。ヒロセ電機、石井です。いつもヒロセへの各種のご指導、ご支援ありがとうございます。また、コロナ禍でも前回同様のリモート環境となりますが、決算報告会を開催できること、大変うれしく思います。

振り返りますと、昨年のごころは台風による郡山工場の水害、被災対応でありました。そして、ヒロセ創立83周年の今年はコロナによる各種の停滞、特にマレーシア工場の地域ロックダウンによる工場閉鎖対応等々の厳しい困難を乗り越えて正常化への現在に至っております。

いろいろなところで、ビジネス停滞を回避すべく必死に知恵だしをして、現場で立ち向かってくれている人たちがいることを誇りに感じます。ヒロセグループの目指すところは、どんな状況下においても継続安定成長です。現在の混沌とした世界、環境下においても期待を超える踏ん張りを示してこそ、真のヒロセであると思っています。

現在のヒロセ事業、ビジネス環境の概要を次のように考えています。新たなるチャンスの拡大が進んでいると思います。デジタル化が加速され、プラス5Gの新しいテクノロジーによる、本当にあ

あらゆるものがつながる時代に入っています。私たちのつなぐビジネス、コネクタは新しい変化点イコールチャンスの拡大へと展開することが可能です。

一方で、淘汰の時代と言われる環境下、非常にタフで激戦市場に進むとの自覚も必要と感じています。今後も進化するヒロセ、前進するために環境、社会変化への対応を含め、あらゆる面で感じる力、感知力を上げ、それに対応する反応力の強化を図りたいと思っています。

そして、今年も早いもので2020年度下期に突入しました。これから弊社、IRサイドより上期の結果、および今後の見通しをご報告させていただきますので、ご確認よろしくお願いたします。以上、簡単ではありますが、私からの冒頭のあいさつとさせていただきます。



### 業績サマリー (2020年度 第2四半期累計 2020年4月~9月)

- 2020年度第2四半期は、スマートフォン・コンシューマ市場向けの伸長と自動車市場向け回復により、第2四半期累計 対前年比 売上+1.3%、営業利益+11.8%、営業利益率 21.1% となりました。

(金額：億円)

	2019年度			2020年度			前年同期比
	1Q (19.4-6)	2Q (19.7-9)	上期 (19.4-9)	1Q (20.4-6)	2Q (20.7-9)	上期 (20.4-9)	2020.2Q累計 / 2019.2Q累計
受注	300.8	322.5	<b>623.3</b>	277.4	369.4	<b>646.8</b>	+3.8%
売上	282.3	320.3	<b>602.7</b>	274.0	336.4	<b>610.4</b>	+1.3%
営業利益	53.4	62.0	<b>115.3</b>	59.0	70.0	<b>128.9</b>	+11.8%
営業利益率	18.9%	19.3%	<b>19.1%</b>	21.5%	20.8%	<b>21.1%</b>	+2.0pt

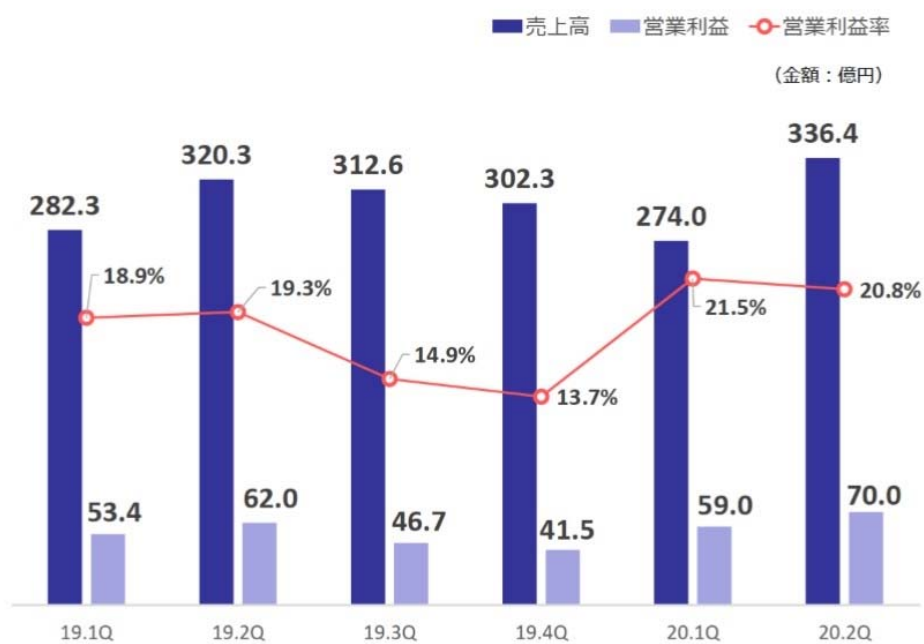
3

須崎：それでは、ここから決算の説明を資料に従って進めさせていただきます。

まず3ページをご覧ください。業績サマリーになります。

2020年度第2四半期は、スマートフォン・コンシューマ市場向けの伸びと、自動車向けの回復によりまして、第2四半期累計売上前年比プラス1.3%、営業利益11.8%、営業利益率は21.1%という結果でありました。

## 売上・営業利益推移 (2019年度1Q～2020年度2Q / ヒロセ連結ベース)



4

続きまして、4 ページをお願いします。四半期ごとの売上と営業利益をグラフにしたものです。

第2 四半期、7 月から9 月の四半期ですと、売上高 336.4 億円、営業利益 70 億円、営業利益率は 20.8%という結果でした。

## 2020年度 第2四半期累計 連結決算概要

(金額：億円)

	2019年度2Q累計 (2019/9月期)	2020年度2Q累計 (2020/9月期)	増減額 (対前年同期比)	増減比 (対前年同期比)
<b>売上高</b>	<b>602.7</b>	<b>610.4</b>	<b>+7.7</b>	<b>1.3%</b>
売上原価率	57.1%	57.6%	+0.5%	
販売・管理費比率	25.0%	23.8%	-1.3%	
<b>営業利益</b>	<b>115.3</b>	<b>128.9</b>	<b>+13.6</b>	<b>11.8%</b>
営業利益率	19.1%	21.1%	+2.0%	
<b>税引前利益</b>	<b>120.9</b>	<b>128.9</b>	<b>+8.0</b>	<b>6.6%</b>
税引前利益率	20.1%	21.1%	+1.0%	
<b>当期利益</b>	<b>85.7</b>	<b>93.4</b>	<b>+7.6</b>	<b>8.9%</b>
当期利益率	14.2%	15.3%	+1.1%	
総資産残高	<b>3,434.5</b>	<b>3,480.7</b>		2019年度 2Q
自己資本比率	<b>89.2%</b>	<b>89.6%</b>	1US\$	108.63円
			1€	121.42円
1株当たり 当期利益	<b>235.12円</b>	<b>257.48円</b>	100ウォン	9.22円
				2020年度 2Q
				106.92円
				121.30円
				8.89円

5

続きまして、5 ページになります。決算概要まとめになります。

第2四半期累計売上高 610.4 億円、前年比プラス 1.3%。営業利益は 128.9 億円、利益率 21.1%、前年比プラス 11.8%。税引前利益が 128.9 億円、前年比がプラス 6.6%。当期利益が 93.4 億円で、前年比がプラス 8.9%。総資産残高 3,480.7 億円、こちら、のちほど BS でまた詳しく見ていただきます。1 株当たり当期利益、257.48 円という結果でした。

為替の実績はドルで 106.92 円、ユーロが 121.3 円、ウォン、100 ウォン当たり 8.89 円で昨年に比べ、主要通貨全てで円高となっております。

## 2020年度 第2四半期 対前年主要増減

<b>売上高</b> <b>7.7億円 増</b> (602.7億円 → 610.4億円)	ヒロセ単体 : +14.5億円 子会社 : -6.8億円
<b>売上原価率</b> <b>0.5pt 悪化</b> (57.1% → 57.6%)	減価償却費率 : 10.2% → <b>10.8%</b> 労務費率 : 6.8% → <b>7.0%</b>
<b>販売・管理費比率</b> <b>1.2pt 良化</b> (25.0% → 23.8%)	150.7億円 → 145.0 億円 (5.7億円 減少)
<b>金融収益・費用</b> <b>5.6億円 悪化</b> (+5.5億円 → -0.1億円)	為替差損 : -0.6億円 → -4.3億円

6

続きまして、6 ページをご覧ください。対前年の主要増減になります。

売上 7.7 億円の増ですが、単体側がプラスの 14.5 億円、子会社側がマイナス 6.8 億円でした。売上原価率は 57.6%と 0.5 ポイントの悪化ですが、減価償却費率の上昇によるものです。販管費は昨年比 5.7 億円の減少で、1.2 ポイントの比率が良化しております。金融収支は 5.6 億円の悪化であります。こちらは先ほどのとおり、円高による為替影響が主要因であります。

## 2020年度 第2四半期 対前年同期 変動分析

(金額：億円)

	売上	営業利益	営業利益率	税前利益	税前利益率
<b>2019年度 2Q累計実績</b>	<b>602.7</b>	<b>115.3</b>	<b>19.1%</b>	<b>120.9</b>	<b>20.1%</b>
為替影響	-7.0	-5.2		-9.0	
減価償却費増		-5.9		-5.9	
人件費増		-1.2		-1.2	
運賃荷造費増		-2.7		-2.7	
物量増	14.7	8.9		8.9	
土地売却益		-8.4		-8.4	
保険金収入		15.0		15.0	
旅費・海外渡航費減		4.6		4.6	
その他販管費減		4.4		4.4	
その他		4.2		2.4	
<b>変動額計</b>	<b>7.7</b>	<b>13.6</b>		<b>8.0</b>	
<b>2020年度 2Q累計実績</b>	<b>610.4</b>	<b>128.9</b>	<b>21.1%</b>	<b>128.9</b>	<b>21.1%</b>

7

続きまして、7 ページになります。前年比較での変動分析になります。

為替は先ほどのとおり、円高影響で売上が7億円、営業利益が5.2億円、税前利益9億円のマイナス影響になります。減価償却費増により5.9億円のマイナス影響。運賃増は航空機減便による物流費増によるもので、最近は緩和されてきておりますが、上期合計で昨年比2.7億円の増で利益マイナス要因となりました。

土地の売却益は2019年度第1四半期のものであります。それと、その下、保険金収入は今年度第1四半期のものです。旅費・海外渡航費減は第1クォーターのときには2.5億円出ておりましたが、上期トータルで4.6億円と、第2クォーターでも約2億円出ております。



### 一時的要因を除いた場合の営業利益推移 (2019年度1Q～2020年度2Q)



8

続きまして、8 ページになります。一時的要因を除いた場合の営業利益をご参考までにお見せしているものです。今第2 四半期は大きな特別要因はございません。

## 連結貸借対照表

(金額：億円)					
科目	2020/3末	2020/9末	増減額	備考	
資産	現金及び現金同等物	505.6	528.9	23.3	定期預金満期、他
	営業債権及びその他の債権	304.4	335.5	31.0	売掛金増 +27.7億円、他
	棚卸資産	145.1	157.7	12.6	海外販社での在庫積上げによる増
	その他金融資産	1,706.8	1,715.4	8.6	
	有形固定資産	615.4	607.4	-8.0	
	使用权資産	44.8	42.4	-2.4	
	その他	104.3	93.5	-10.8	未収消費税還付△13億円、他
	合計	3,426.4	3,480.7	54.3	
現預金合計	1,674.5	1,703.0	28.5	9	

続きまして、9 ページ BS になります。まず資産の部からです。

営業債権の増加は売上増になる売掛金増によるものです。棚卸資産の増加は、海外販社での在庫積上げ増による政策的なものでして、3月末からは増加であります。第1クォーターの決算のときにお見せしております6月期では164億円でありましたので、この四半期、つまり6月から9月末での変化では約6億円程度減少しています。

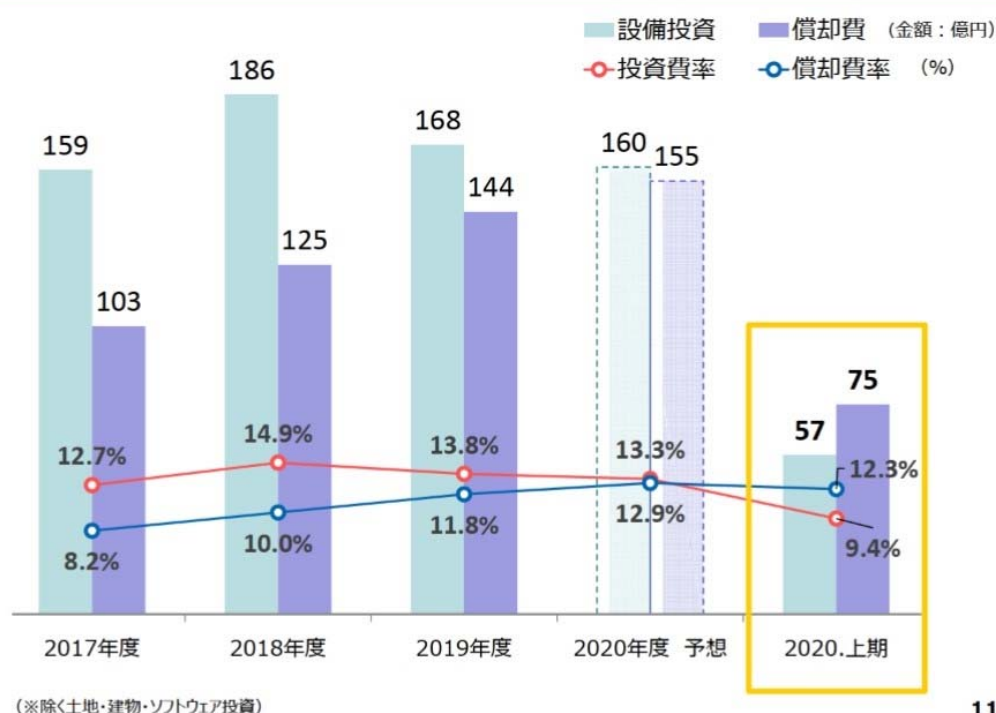
## 連結貸借対照表

		(金額：億円)			
	科目	2020/3末	2020/9末	増減額	備考
負債	支払債務及び その他の債務	167.5	166.8	-0.7	
	リース負債	44.9	42.6	-2.3	
	未払法人税	29.6	32.3	2.7	
	その他	123.0	122.0	-1.0	
	<b>合計</b>	<b>365.0</b>	<b>363.7</b>	<b>-1.4</b>	
純資産	資本金及び 資本剰余金	207.0	206.9	-0.1	
	利益剰余金	3,083.4	3,109.6	26.1	当期利益 +93.4億 配当 △43.5億 自己株式への振替 △23.8億
	自己株式	-244.6	-220.8	23.8	自己株式消却 +23.8億円
	その他	15.6	21.4	5.8	為替換算調整 +8.5億円他 (ウオン高・円安のため)
	<b>合計</b>	<b>3,061.4</b>	<b>3,117.1</b>	<b>55.6</b>	
<b>負債及び純資産合計</b>		<b>3,426.4</b>	<b>3,480.7</b>	<b>54.3</b>	

10

続きまして、10 ページ、BS の負債と純資産の部です。自己株式の消却は 6 月に 20.5 万株を実施したものであります。

## 設備投資・償却費 推移 (連結ベース)



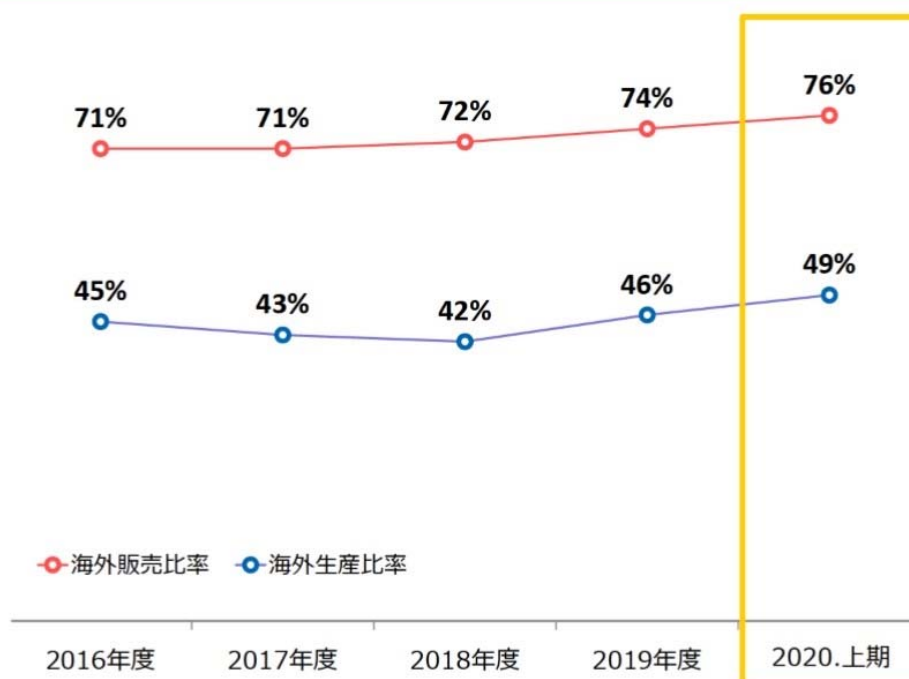
11

続きまして、11 ページです。設備投資と償却の推移です。

今上期の実績は、投資額 57 億円、償却費が 75 億円の結果でした。この上期はコロナによる活動制限から、整備投資が若干、進んでないところでもありますが、年間予想としましては、売上の上  
方修正もしておりますので、計画は据え置きにしております。

研究開発費の実績は上期 50 億円でありました。年間予想は 120 億円で変更はございません。

## 海外生産比率・販売比率



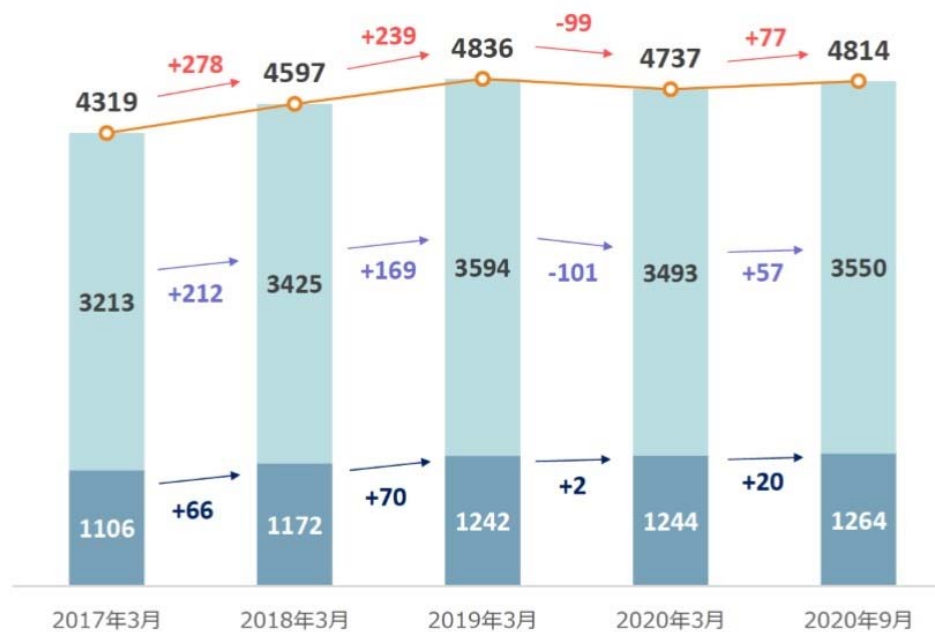
12

続きまして、12 ページになります。海外生産比率と販売比率の推移です。

販売比率は昨年度 74%から 2 ポイントアップの 76%が上期の結果でした。こちらはスマートフォンとコンシューマ関連の売上増によるものであります。生産比率は昨年度の 46%から今上期 49%の 3 ポイントアップとなりました。これは主に韓国とマレーシアの生産増によるものであります。

## 従業員数 推移 (有報ベース)

(単位:人) ■ 海外 ■ 国内

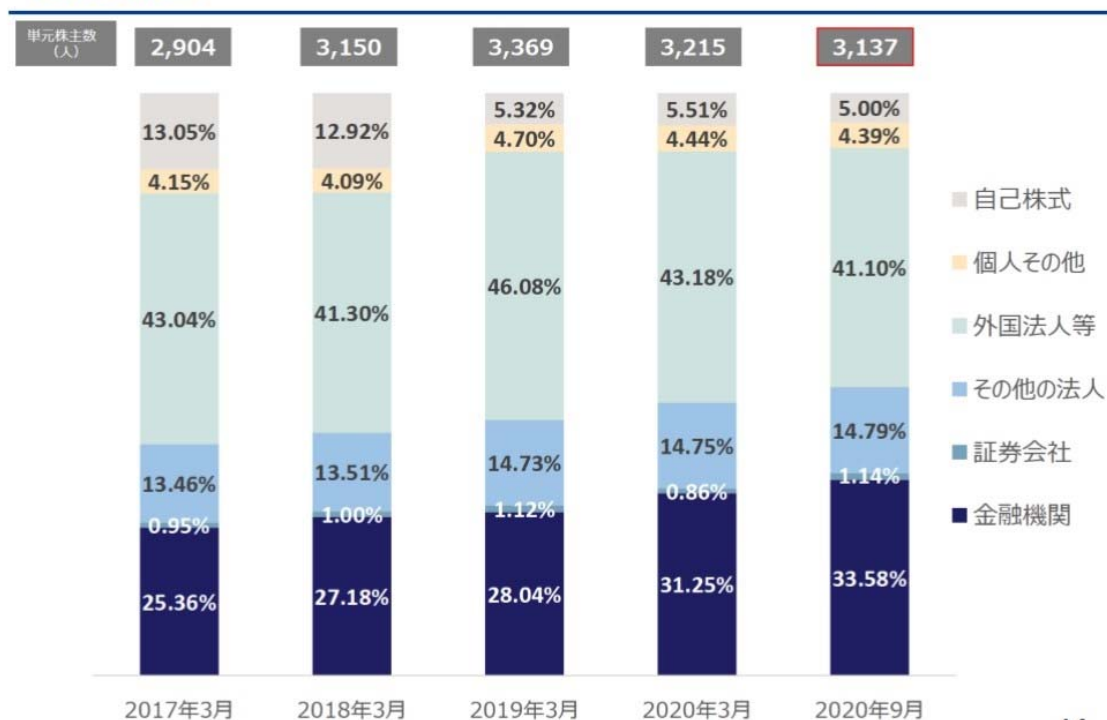


13

続いて、13 ページになります。従業員数の推移です。

この9月期で国内が1,264名、海外が3,550名の4,814名とトータル77名の増加になりました。海外の増加はマレーシア、インドネシアの増産対応での増員であります。

### 株式分布推移



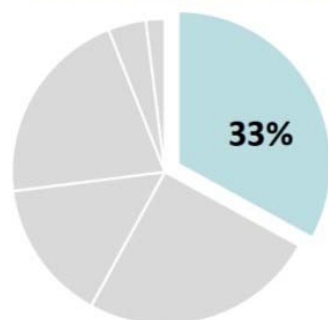
続いて、14 ページは株式分布になります。

海外は比率が若干減少、国内金融機関が増加となっております。自己株式は6月に5%を超える部分の消却を実施しておりますので、5%となっております。

## 分野別売上 一般産機

							(金額: 億円)
2019年度			2020年度			前年比	
	1Q	2Q	累計	1Q	2Q	累計	2020.2Q累計 / 2019.2Q累計
売上高	86	93	179	103	95	198	+11%

## ● 2020年度2Q累計 構成比



## ● 四半期別売上推移



■ 一部で動きが出ているものの、全体としては緩やかな回復傾向。

15

次に 15 ページ、ここから分野別の動向に関してになります。

まず、このページは一般産機向けです。構成比は 33%と第 1 クォーターに比べて減少しましたが、ある程度の水準という印象であります。上期売上としては前年比プラス 11%でありました。

産機向けは第 1 クォーターから第 2 クォーターで減少する見込みでしたが、やや減少幅が少なかった印象であります。それと、最近、一部 FA 関連で動きが出ているところもありますが、全体として年間では緩やかな回復をする方向と思っております。

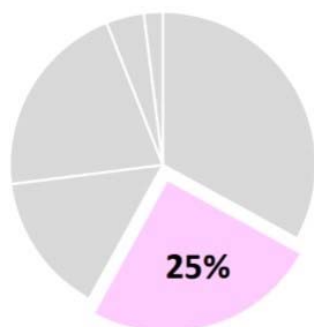


## 分野別売上 スマートフォン・携帯端末

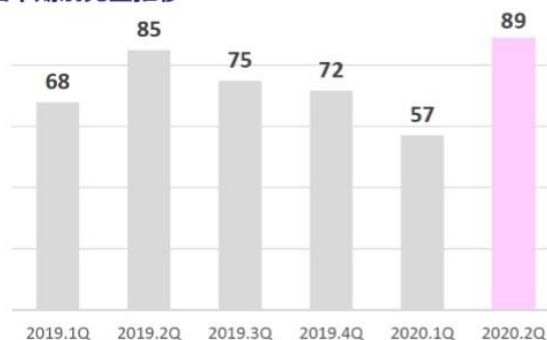
(金額: 億円)

	2019年度			2020年度			前年比
	1Q	2Q	累計	1Q	2Q	累計	2020.2Q累計 / 2019.2Q累計
売上高	68	85	153	57	89	146	-5%

● 2020年度2Q累計 構成比



● 四半期別売上推移



- 第2四半期 スマホ・携帯端末向け売上は、季節性の需要増予想を上回る。今後も5G新機種への期待もあり高水準で推移すると思われる。

16

続いて、16 ページ。スマートフォン・携帯端末向けになります。

第2 四半期が季節性で売上増になることは想定していましたが、それをやや上回る結果でありました。上期売上は前年比マイナス 5%ですが、第 2 クォーターの対前四半期比では 57 億から 89 億円で、1.5 倍以上の伸びとなりました。現状、このスマホの業界に変化が生じていることもありまして、顧客側の戦略情報とも関わる可能性があるため、地域別などの紹介は申し上げられないことをご了承くださいたいと思っております。

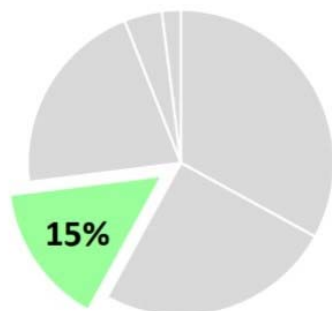
ただ、各社の 5G 端末の方向性が強い傾向は間違いのないところでありまして、5G 新機種はインフラより先に進むといった、4G のときと同様の傾向との印象であります。

## 分野別売上 自動車・モビリティ関連

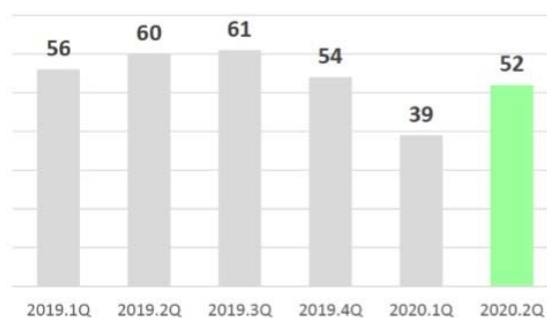
(金額: 億円)

	2019年度			2020年度			前年比
	1Q	2Q	累計	1Q	2Q	累計	2020.2Q累計 / 2019.2Q累計
売上高	56	60	116	39	52	91	-22%

● 2020年度2Q累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ 自動車市場向けは、前四半期（2020.1Q）を底に回復基調に展開。

17

続きまして、17 ページ。自動車・モビリティ関連向けです。

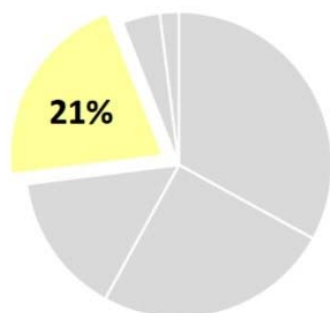
第2四半期を底に回復局面に入ってきたと考えております。第1四半期39億円の売上から第2四半期52億円の増という結果でございました。上期としては前年比マイナス22%とまだ大きな落ち込みではありますが、第3四半期も増加と思われれますので、年初の年間減少幅が少し狭まるようになってきていると思っています。

## 分野別売上 コンシューマ・モバイル機器

(金額: 億円)

	2019年度			2020年度			前年比
	1Q	2Q	累計	1Q	2Q	累計	2020.2Q累計 / 2019.2Q累計
売上高	45	52	97	51	72	123	+27%

● 2020年度2Q累計 構成比



● 四半期別売上推移



- 感染防止策としてリモートワークが定着、パーソナル・小型コンシューマ機器の需要が一時的に増加している。

18

続いて、18 ページ。コンシューマとモバイル機器向けになります。

機器の内訳を簡単に申し上げますと IT 家電、ウェアラブル機器、コンシューマゲーム機、デジカメ、それにモバイル機としてはノート PC、タブレット PC であります。

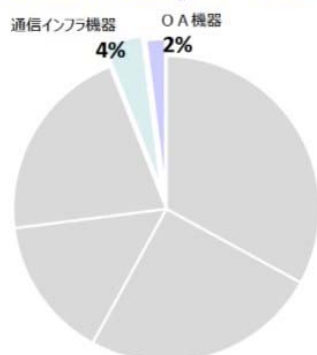
リモートワークの定着での需要が続いておりまして、第 2 四半期は高い売上となりました。上期の売上構成比としては全体の 2 割を超し、伸び率としてはプラス 27% という結果になりました。今後も今年度は当初の見込みを上回る状態で継続すると考えています。

### 分野別売上 通信インフラ機器 / OA機器

(金額: 億円)

	2019年度			2020年度			前年比 2020.2Q累計 / 2019.2Q累計
	1Q	2Q	累計	1Q	2Q	累計	
通信インフラ機器	11	14	25	11	13	24	-4%
OA機器	6	7	13	5	5	10	-23%

#### ● 2020年度2Q累計 構成比



#### ● 四半期別推移

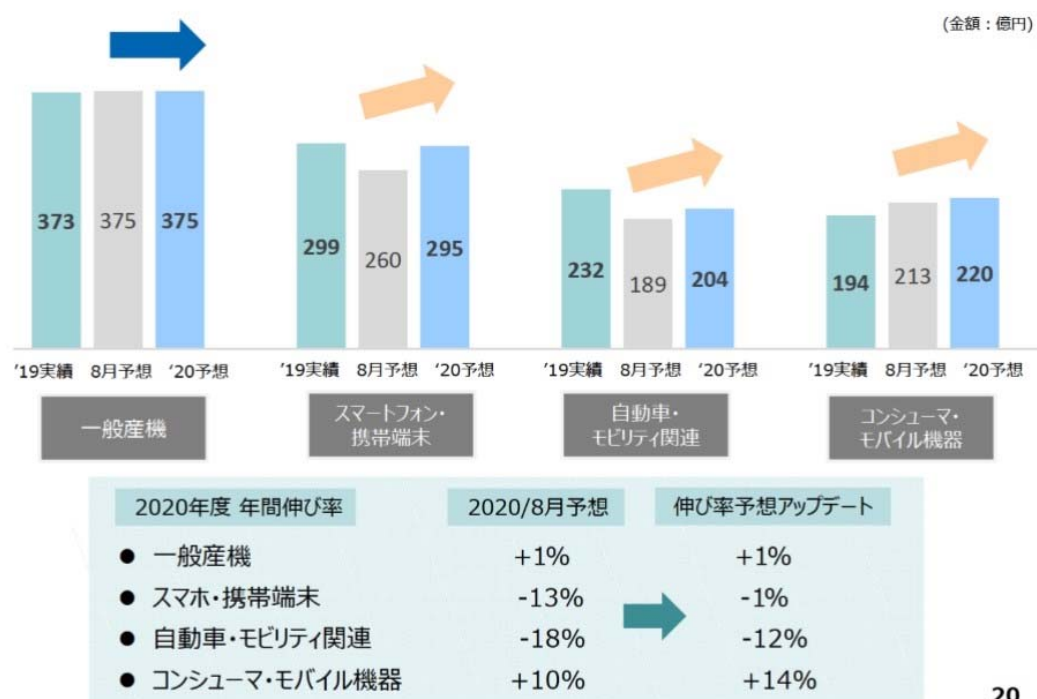


19

続いて、19 ページ、通信インフラ機器向けと OA 機器向けです。

通信インフラ機器の売上では、第 2 四半期では若干の回復となっております。

## 分野別 年間売上予想【アップデート】



20

20 ページになります。こちら、分野別の年間売上予想のアップデートです。

第1四半期の決算発表時点での年間伸び率の予想を今回、見直しております。

まず、一般産機向けは変更なく、年間プラス1%のほぼ横ばいです。スマホ向けに関しては、前回マイナス13%としておりましたが、今回は年間マイナス1%と上方修正しています。自動車向けは前回マイナス18%としておりましたが、年間の下げ幅をやや少なく見直し、マイナス12%となっています。コンシューマ向けは前回プラス10%としておりましたが、上期の想定を上回る分を上方修正し、年間プラス14%といたしました。

## 2021年3月期 業績予想（連結）修正サマリ

年間売上予想【アップデート】に基づき、通期の業績予想を上方修正致します。

	① 20/5 公表値	② 20/11 新公表値	②-①修正金額
売上高	1,150	1,200	+50
営業利益	172	215	+43
(%)	15.0%	17.9%	
当期利益	130	160	+30
(%)	11.3%	13.3%	

- スマートフォン向け…5G対応新機種向け等による需要増
- 自動車向け…中国の需要増加等による回復傾向の局面
- コンシューマ・モバイル機器向け…リモートワーク定着等を背景にした需要拡大等により、当初予想を上回る見込みとなり、業績予想を修正致します。

21

続いて、21 ページになります。業績年間予想の修正に関してになります。

5 月公表時点からの修正でして、売上高 1,200 億円、営業利益 215 億円、当期利益 160 億円と上方修正しております。この要因としましては、スマホの 5G 新機種向けなどの需要増、自動車向けの回復傾向、コンシューマ・モバイル向けの需要拡大など、当初予想を上回る見込みによります。

第 2 クォーターが強かったというところで、第 3 クォーターも同程度で強いイメージはあるのですが、年明け第 4 クォーターの需要動向が見えないというところもあり、やや堅めの数字に見えるかもしれませんが、需要面での変化は流動的と考えております。

私からの説明は以上になります。ここから詳細なところ、管理本部長の福本より説明申し上げます。

**福本**：福本です。おはようございます。詳細は今、実は須崎がだいたい説明したのですが、上期につきましては 9 月 24 日に当初の予測の売上利益を上方修正させていただきました。幸いにも実績では、それをさらに上回る結果を残せたということで着地したというところがございます。

それにも付随していますが、今回年間の公表値、売上 1,200 億円、営業利益 215 億円、当期利益 160 億円で、5 月の公表値を上方修正したということがございます。この修正の公表値は聞くとこ

ろによると、アナリストの皆さんのコンセンサスのオンライン上ということのようですが、なぜか今朝、株価が800円、900円ちょっと前日から下がっておりますので、これらが残念なところでございます。



## 2021年3月期 業績予想（連結）

スマートフォン・自動車・コンシューマ向けビジネスが当初予想を上回る見込みのため2020.5の公表値を修正致します。										(金額：億円)	
	2019年度 (2020/3月期) 実績		2020年度 (2021/3月期)			第2四半期累計 対前年実績		通期 対前年実績			
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計 実績	2020.5 公表値	今回修正 公表値	増減額	増減率	増減額	増減率		
<b>売上高</b>	602.7	1,217.6	<b>610.4</b>	1,150.0	<b>1,200.0</b>	+7.7	1.3%	-17.6	-1.4%		
売上原価率	57.1%	57.8%	<b>57.6%</b>	60.4%	<b>58.2%</b>						
<b>営業利益</b>	115.3	203.6	<b>128.9</b>	172.0	<b>215.0</b>	+13.6	11.8%	+11.4	+5.6%		
(%)	19.1%	16.7%	<b>21.1%</b>	15.0%	<b>17.9%</b>						
<b>税前利益</b>	120.9	212.1	<b>128.9</b>	180.0	<b>220.0</b>	+8.0	6.6%	+7.9	+3.7%		
(%)	20.1%	17.4%	<b>21.1%</b>	15.7%	<b>18.3%</b>						
<b>当期利益</b>	85.7	153.1	<b>93.4</b>	130.0	<b>160.0</b>	+7.6	8.9%	+6.9	+4.5%		
(%)	14.2%	14.4%	<b>15.3%</b>	11.3%	<b>13.3%</b>						
一株当たり 当期利益	—	420.39円	—	358.45円	<b>441.17円</b>			2019年度 実績	2020年度 予想 (今回)		
一株当たり配当	120円	240円	<b>120円</b>	240円	<b>240円</b>	1US\$	108.74円	105.96円			
連結配当性向	—	57.1%	—	67.0%	<b>54.4%</b>	1€	120.82円	122.65円			
						100ウォン	9.21円	9.00円			

22

今回の分野ごとの公表値の修正に関します売上につきましては、先ほど須崎が説明したとおりでございます。おそらく多くのアナリストの方、投資家の方は上期と下期の差を見て、下期は上期より売上も利益も下がるのかと疑問を持たれていると思います。正直申しますと、売上に関しましては10月、11月ぐらいまではかなり読めている状況ですが、残念ながら12月の後半、あるいは年明けからどういう動きになるかが、必ずしもクリアに見えておりません。

ですから、まず今の段階ではこの1,200億円はきっちりやっ払いこうと、社内展開はもちろんしています。2019年度の売上が1,217.6億円ですから、できる限り、これ以上のものを目指したいと思いますが、最低限コミットするのは、この1,200億円でご理解いただければと思います。

上下の大きな動きという意味ではやはり、今日の資料をいろいろ逆算していただくと見えるのですが、特に産機のところは少し下期弱いと見ております。



それから、自動車は上期に対して下期、上がっていくと見ております。コンシューマも若干、上期に対して弱いかと見まして、上期に対しての売上をマイナス約 20 億、上期、下期でちょっと段差を付けているということでございます。

利益は上期 128.9 億円ですが、これ逆算しますと、下期 86.1 という数字が出てきますが、このところは大きくは先ほどいいました一般産機を中心としました、ちょっと売上減を見込んでいるので、利益が約 13 億円程度利いてくるのではないかと見ております。それと、上期にあった郡山水害の保険金が 15 億円ございましたが、これはもう下期はありませんので、その分がさらにマイナス 15 億円。

あと、減価償却費、販管費、あるいは設備関係のちょっと廃棄も下期出てくるだろうということで 14 億円程度見ておりますので、この辺を織り込んだ上で下期の数字ができている状況だと思えます。

一応、年間の為替は、資料 22 ページの右下に書いてございます。このところも少し、今、円高方向に出ているかと思いますが、為替はちょっと先行きがよく分かりませんので、ここにあるレートで置いたものがいったん、この売上利益になっているということでございます。

あと、中間配当は 1 株当たり、120 円。年間も最終的には来年の株主総会になりますが、240 円、配当性向 54.4%でやっていけたらと思っております。

今日はこういった説明になるかと思えます。しばらくアナリストの方、投資家の方と顔が見えなくて、少し私も残念に思いますが、また次回、あるいは次々回ぐらいは年に何回か対面でこういう説明会できたら、とも考えております。

雑駁でございますが、私からの説明は以上でございます。

**須崎**：これにて、閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

**石井**：ありがとうございました。

**福本**：どうもありがとうございました。



---

## 免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。